

2025.1  
JANUARY  
No.26

高知大学医学部附属病院広報誌  
隔月刊【おらんくの大学病院】

# RANK

RANK

2025.1 JANUARY No.26

高知大学医学部附属病院広報誌  
隔月刊【おらんくの大学病院】

【発行日】2025年1月20日

【発行】高知大学医学部附属病院 広報係 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 Tel.088-880-2723

唯一無二の医療技術を携え、  
高知大学から全国へと発信！

耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授

手島直則



医学部時代から培った変わらぬ友情。  
医師仲間となった今、高知で昔を語り合う。



高知大学医学部附属病院



<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/index.html>



#### ＼広報担当者のつぶやき／

毎号、一番頭を悩ませるのが「どんな表紙にするか」です。編集する側は『とにかくインパクトのある写真を』『面白いものを』と考えるのですが、掲載される先生のお人柄や好みとの兼ね合いもあり、何度も調整が入ることが常となっています。

今回、手島教授にお付き合いいただいて、色々なパターンの表紙用写真を撮影しました。これは採用されなかった写真ですが、温かみのある写真で誌面のどこかに登場させたかったので、こちらのコーナーで紹介させていただきます。



「母校の高知大学医学部に帰られて間もない昨年9月から、「耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座」教授に就任されましたが、本講座について教えてください。」

1981年4月に初代教授・本庄巖先生により高知医科大学耳鼻咽喉科学講座として開講され、第2代教授・齋藤春雄先生、第3代教授・竹田泰三先生が就任されました。2003年に高知大学との統合に伴い、高知大学医学部耳鼻咽喉科学講座となり、第4代教授・兵頭政光先生が就任されました。この度、5代目教授として、2024年9月に着任させていただきました。また私の着任に伴い講座名が高知大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座に変更されました。卒業後18年が経過しており、久しぶりの高知大学です。主に臨床実習で学生たちと向き合っていますが、皆、後輩ですので自分の学生時代も振り返りながら指導を行っております。診療や教育にとっても充実した日々を送っています。

「当科において今もっとも力を入れている取り組みや治療法についてご説明ください。」

私は2006年に高知大学医学部を卒業後、頭頸部外科を志し、神戸大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局いたしました。耳鼻咽喉科一般診療を研修した後、根治と機能温存の両立を目指した頭頸部がん診療の技術と手術手技を習得するために、兵庫県立がんセンター、国立がん研究センター中央病院、神戸大学医学部附属病院という多くの頭頸部がん患者が受診する施設で勤務をさせていただきました。丹生健一教授を始めとして多くの御高名な頭頸部外科医にご指導いただきました。また甲状腺診療で有名な神甲会隈病院に勤務する機会をいただき宮内昭現名誉院長に甲状腺がん診療の考え方と手術手技についてご指導いただきました。まずは根治と機能温存の両立を目指した頭頸部がんや甲状腺がんの治療について、腫瘍内科、放射線治療科、

「他にも先生が以前から取り組まれている研究がおりだとか。」

そうなんです。以前から長く取り組んでいるとても興味深い研究で、1つ目は甲状腺腫瘍の分子生物学的スクリーニングシステム開発、2つ目に唾液腺がんに関するバ

「最後に高知県民の皆さん、医療に関わっている方々へのメッセージをお願いします。」

これからも多くの医学生や研修医の先生方に仲間に加わっていただき、一致団結して県内の医療、教育、研究に貢献できることを目標に、

イオマーカー創出を研究課題としてまいりました。現在も早稲田大学と医工連携として甲状腺腫瘍の革新的診断技術の確立に関する研究の最中でして、これまで以上に臨床における問題点からアイデアを想起し、研究活動に取り組みやすい体制づくりを強化していく考えです。

なお一層努力いたします。そして、独自性とオリジナリティにあふれた本院ならではの医療技術を高知から全国へ発信できるように、日々精進してまいります。

これまでの長引く症状や他院での治療などでお困り事、お悩み事があればご遠慮なくご相談いただければと思います。

耳鼻咽喉科頭頸部外科領域は人間が日常生活を営む上で欠かせない重要な機能を司る部位であり、近年のこの分野では耳、鼻などの感覚器疾患、音声、嚥下などの機能障害に加え頭頸部領域に発生する腫瘍性疾患治療における高い専門性、それら領域の教育の重要性が、重要視されている。今回は、本学卒業後18年ぶりに本院へ里帰りし、当科ならではの先進的治療メソッドを学生たちへ指導しながら、精力的に患者さんの治療にあたっている手島直則教授に現在の専門領域について話を聞いた。

# 唯一無二の医療技術を携え、高知大学から全国へと発信！

高知大学耳鼻咽喉科頭頸部外科の挑戦とは。

NOW & THEN

耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授

**手島 直則** (てしま まさのり)

- 【経歴】 2006年 高知大学医学部医学科 卒業
- 2019年 神戸大学大学院医学研究科 卒業
- 2006年 労働者福祉機構神戸労災病院 初期研修医
- 2008年4月 神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 後期研修医
- 2008年10月 国立病院機構神戸医療センター耳鼻咽喉科 専攻医
- 2010年 兵庫県立がんセンター頭頸部外科 医員・医長
- 2012年 三木市立三木市民病院耳鼻咽喉科 医員
- 2013年 沖縄県立八重山病院耳鼻咽喉科 医員
- 2014年 神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医員
- 2015年 国立がん研究センター中央病院頭頸部腫瘍科 医員
- 2017年 神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教
- 2018年 神甲会隈病院頭頸部外科 医師
- 2019年 神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教
- 2020年 神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
- 2021年 米国スタンフォード大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科客員研究員
- 2022年 神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
- 2024年 高知大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授 現在に至る

【専門分野】 頭頸部腫瘍、甲状腺腫瘍

【専門医等資格】 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医・指導医、日本がん治療認定医、頭頸部がん専門医・指導医、内分泌外科専門医

【所属学会、研究会等】 日本耳鼻咽喉科学会、日本頭頸部癌学会、日本頭頸部外科学会、日本気管食道科学会、日本喉頭科学会、日本内分泌外科学会、日本頭蓋底外科学会

消化器外科、脳神経外科、形成外科、歯科口腔外科の皆様のご支援を頂きながら、包括的な診断・治療を実践していきたいと思えます。

他の耳鼻咽喉科領域も教室員と共に診療、治療にあたっています。耳疾患では外耳道形成術、鼓室形成術、アブミ骨手術、人工内耳埋め込み術などの耳科手術や慢性副鼻腔炎、アレルギー性嗅覚障害における薬物治療法や手術治療、扁桃腺疾患のほか、報道などでも頻繁に取り上げられる睡眠時呼吸障害においては成長障害にもつながる小児の睡眠時無呼吸検査や治療も行っています。他にも声の使い過ぎ等による声帯ポリープなどの治療、音声障害疾患に対する手術や嚥下障害に対する嚥下機能改善手術や誤嚥防止手術まで広い範囲の治療を行っています。

「先生のご専門領域の中でも、頭頸部腫瘍に造詣が深く治療の行える医師はまだ少ないとも聞いていますが。」

そういった意味では私はとても恵まれていたと思います。これまで、根治と機能温存の両立を目指した頭頸部がん治療について、さまざまな専門医から多くの指導、教示をいただく機会があり、現在の私自身の土台を作っていたのだと言っても過言ではありません。高知県は高齢化率が高く、頭頸部がんのリスク因子である飲酒・喫煙も多いことでも知られております。頭頸部がん患者が潜在的に多く存在している可能性がありますが、高知大学には頭頸部がん専門医を指導する頭頸部がん指導医は私しかおりません。その点でも多くの頭頸部がん専門医・指導医を育成し輩出していくことも私の責務であると考えております。また、以前神申会隈病院に勤務していた時の経験を生かして甲状腺がん治療につきましても、精力的に取り組んでいきたいですし、多くの診療科や多職種の先生方からご支援をいただきながら、包括的な診断、治療を実践していきたいと考えています。↵

# 医学部時代から培った変わらぬ友情。 医師仲間となった今、高知で昔を語り合う。

高知大学医学部で青春時代を送った手島教授、  
今でも当時の仲間とお酒を酌み交わし、旧交を温めているという。  
20年来の友人関係であるお2人にご協力いただき、その人柄に迫る。

今日はお忙しい中  
お時間をいただき、  
ありがとうございます。  
まずは先生方について、  
手島先生、  
ご紹介をお願いします。

試験の勉強をして、試験用のテキ  
ストも部屋に置きっぱなし状態。  
あの1年は本当に濃かった(笑)。  
それからの付き合いが  
ずっと続いているんですね。

**手島** 高知大学医学部の同級生  
で、高知赤十字病院に勤務してい  
る上村先生(令和7年1月から高  
知医療センター)といずみの病院  
に勤務している船越先生です。上  
村先生とはバスケット部で一緒で、船  
越先生はサッカー部だったんです  
が、運動部とは別で軽音部に所属  
してまして、そこで一緒でした。

**手島** さっき話に出てきた高矢  
先生に、当時医学部で仲の良かった  
メンバーを加えた計7人で毎年  
一度集まってるんです。だからも  
う20年近くなるのかな。

**船越** 後は、国家試験の勉強をす  
るグループが同じだったのが大き  
いですね。今神戸にいる高矢先生  
と僕ら3人の計4人で約1年  
間、朝から深夜まで延々と国家

**上村** 毎年幹事を決めて、幹事が  
働いている地域で開催するんです  
が、手島が石垣島で勤務していた  
時期があつて、その時は迷わず幹  
事をやつてもらいました(笑)それ  
ぞれの家族を連れて集まったり、  
毎年楽しみな行事になってます。

続いているね。なんて感心されるこ  
ともありますが、たぶん一回止め  
ちゃつと終わっちゃう。だから、年  
によっては全員集まれないことも  
あるけど、続けていくことが大事  
なのかなとも思いますね。

**上村** その性格の影響で、色ん  
な連絡なんかもママに取ってるよ  
ね。そのおかげで関係が長く続け  
てるっていうのもあると思うよ。

## 変わらず ストイックに、 何かを「積む」 ということ

早速ですが、お2人から見た  
手島先生はどんな方ですか。

**船越** とにかくコツコツと「積む」  
印象が強いです。大学時代も、僕  
や上村は試験前に詰め込むタイプ  
なんですけど、手島は毎日勉強して  
た。だから成績も良かったし、頼っ  
ていた部分もありました。今回、  
彼は医学部の教授になりました。  
診療だけでなく論文の執筆なん  
かも、あの頃と変わらず「積む」こ  
とを続けてたんじゃないかな。

**手島** いや、よく言えばそうだ  
けど、心配性なだけだよ(笑)自  
分でも思うけど、色んな事を気

## 情報収集、 コミュニケーション、 共感が揃って チームは強くなる

まじめなお人柄が  
伝わりますね。

**上村** あと、手島はバスケット部で  
キャプテンだったんですけど、彼  
がキャプテンに就任してから、  
チームが勝つようになったんです。  
色んなタイプのキャプテンがいま  
すけど、彼はコミュニケーションを  
大事にしていたと思います。チー  
ムを強くするために積極的に声  
掛けしていて、みんなを鼓舞して  
いました。なので、チームをまとめ  
て強くしていく力もあると、僕は  
思います。

NOW & THEN



**手島** キャプテンを務めさせて頂いた際はバスケット部がどうしたら強くなるかを常に考えていました。当時はインターネットもあまり発達していませんでしたので、アメリカの強豪大学が行っている練習内容や有名コーチの考え方などの本を取り寄せて部活動に取り入れるようにしました。練習内容や考え方に部員も共感してくれるようになり、大会で良い成績が収められるようになった気がします。この経験は私自身、壁にぶつかった際の心の拠り所にもなっておりますし、今後の医局運営にも生かしていきたいと思っております。

## 高知にルーツの無い3人、続いていく高知との縁

先生方は、今現在高知県で診療に当たられています。高知県に対する思いをお聞かせください。

あつたら、他診療科の先生に連絡をさせていただき、すぐ診てもらえたり相談をさせていただけることは大変ありがたいことです。患者さんにとっても、スムーズに治療を進められるので、良いことだなと感じます。

## 年をとっても、立場が変わっても、変わらぬ友情を

最後になりますが、これからの先生方との関係について一言いただきたいです。

**船越** まず、毎年恒例の七人会は続けていきたいですね。手島も教授になっただけですけど、飲み会の場ではあだ名ですし、学生時代に戻って気を遣わずに話せる場があるのは貴重です。すから。

**上村** 同年代の近況を聞くこと



**船越** 僕たち3人は高知大学医学部の同級生ですけど、全員高知出身じゃないんです。僕は千葉出身だし、手島は兵庫、上村は和歌山です。僕と上村は高知が長いけど、そこに手島が帰ってきて、3人でこうやってお酒を飲んでるのも感慨深いよね。

で、仕事に対するモチベーションも上がりますし、近くに来たから機会も増えていくかもね。

**手島** 2人が「高知に帰ってきて近くなったんだから、月に一回は会いたいね」という話もしてくれて。今僕は単身赴任なん



**上村** 今でも思い出すのは部活の勧誘をされた時、先輩が喋っている土佐弁が全然理解できなかった。今となっては、高知で育ってる我が子が土佐弁バリバリだからね。僕よりずっと上手い。

**船越** 今僕は40代前半ですけど、気づいたら千葉よりも高知で生活している期間の方が長くなりました。なんだかんと言っ高知の気候や県民性が性に合ってるのかもね。(笑)

**手島** 高知に帰ってきてまだ日が浅いけど、僕がすごく感じるのは、高知の皆さんはとても大らかだよ。職場でも、本当に和気藹々と仕事してる。話しやすく助かってるよ。

これまでの「職場と違ったりしますか。」

**手島** 高知県特有の話とは少し違うかも知れませんが、卒業大学で働くことのありがたみを非常に感じてます。学生時代の先輩や後輩で顔見知りの先生も多いから、自分が診察している患者さんで気になる症状が

ですけど、たまにランニングで体を動かすくらいで、本当に職場と家を往復するだけの生活になってしまっているの、是非よろしく願います。(笑)

高知の皆さんはとてもおおらか、職場でも和気藹々と仕事してる。

耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授  
**手島 直則** (てしままざのり)

国家試験勉強に没頭した1年間は、本当に濃かった。

医療法人防治会いずみの病院  
緩和ケア病棟医長・乳腺外科外来担当医  
**船越 拓** (ふなこしたく)

同年代の近況を聞くことで、仕事に対するモチベーションも上がる。

高知医療センター  
消化器外科・一般外科 医長

**上村 直** (うえむら すなお)

